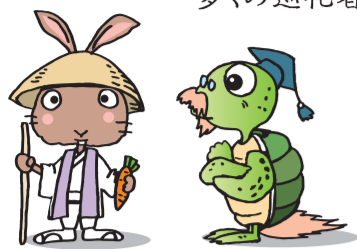


# 秋葉街道をゆく

東区には古来より東海道、姫街道、秋葉街道など

主要な街道が通り、交通の要所となっている。

この秋葉街道は、火伏せの神の信仰を集めた秋葉山へ参詣する道として、多くの巡礼者が歩いた道である。



## 龍泉寺の阿弥陀堂 6

元龜3年(1572)に、家康公は三方原の戦いに敗れ、逃げ帰る途中、阿弥陀堂に身を隠した。この時、家康公の夢に阿弥陀如来が現れ、布橋の戦術を授けたとされている。これにより浜松城は落城を免れ、家康公出世の先駆けとなったと伝えられている。



## 蔵泉院正覚坊大権現 9

正覚坊とは大海亀のことで、正覚坊大権現は海の守り神である。古記では、この地方に十枚ほどの大きさの大海亀が住んでおり、その大海亀が死んだ際に住民が水難除けとしてお祀りしたとされている。現在も漁業関係者に深く信仰され、参拝する人も多い。



## 三方原の戦いの馬塚

元龜3年(1572)の、三方原の戦いの最中、家康公の騎乗した馬が、走湯神社の付近まで来た所で、力尽き倒れたと伝えられている。走湯神社は、方解(現在の中郡町)の鈴木権右衛門家が神主を務めていた。馬が倒れた場所には、馬塚が築かれたといわれているが、詳しい場所は明らかではない。

## 甘露寺の中門と甘露梅 8

甘露寺の中門は桃山時代の様式や技法を見ることができ、昭和41年(1966)に市の指定文化財となった。また古くから寺の庭前には梅の古樹があって、家康公が未開紅甘露梅と名づけたと伝えられている。



## 阿茶局と旧鈴木家屋敷跡 7

方解(現在の中郡町)の鈴木権右衛門家は室町時代から続く家柄で、家康公が浜松城に入城した際に、周辺の村々の代官の役割を与えられた。家康公は鈴木家に側室の阿茶局を預け、頻りに訪れたと伝えられている。阿茶局は、地域の情報を家康公に知らせていたとされている。



## 西伝寺の徳上人念仏碑と観音様 5

徳上人念仏碑と観音様は、昔は西伝寺の西側の旧秋葉街道沿いに建てていた。徳上人は江戸時代後期の浄土宗の高僧で、ひたすら「南無阿彌陀仏」を唱えて日本各地を歩行し、庶民の苦難を救った念仏中興の祖と言われ、文政元年(1818)10月6日に亡くなった。中郡町橋爪東にも徳上人の坐像がある。



## 八坂神社には、鶯が多くいたことから「さざぎの宮」と呼ばれ、現在も地域の名称や駅名として残っているのじゃ!

八坂神社には、鶯が多くいたことから「さざぎの宮」と呼ばれ、現在も地域の名称や駅名として残っているのじゃ!

## 有玉伝説

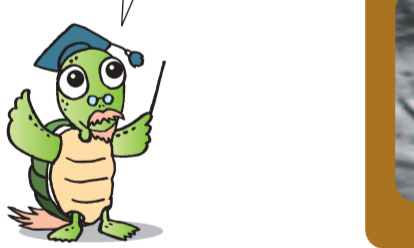
平安時代の武将坂上田村麻呂が、鍛冶屋の途中、袖ヶ浦の赤蛇を退治に訪れたとき、美しい姫が現れ、姫の間に子どもを授かるが、なんと姫は赤蛇の化身であった。姿を見られた赤蛇は子どもを残して去っていった。その後、田村麻呂親子が袖ヶ浦を訪れた時、海が大いに荒れ、渡ることができなかったが、子どもが母の形見の玉を投げ入れると、不思議と水が引き対岸に渡ることができた。その玉が見つかった場所が有玉の地名の由来となった。子どもは後に後光厳帝となつて有玉神社の境内に祀られている。

- 神社
- 寺・地蔵
- 史跡ほか
- 常夜灯
- 鞘堂
- 道標
- 碑・塔
- 総合案内板
- 資源解説板
- お休み処
- 公園
- 交番
- 郵便局
- コンビニ
- 学校
- 公共施設
- 保存樹林

※旧秋葉街道は明治23年測量の陸地測量部地形図を参考に現在歩ける道にあてはめた道筋です。



秋葉街道界隈では、数々の歴史的文化財や秋葉山常夜灯などを見ることが出来る。東区では、地域の歴史と文化の掘り起こしをテーマに街道文化の継承と新しい街道文化の創造を目指しているのじゃ。



昭和4年頃の流瀧馬 現在の流瀧馬

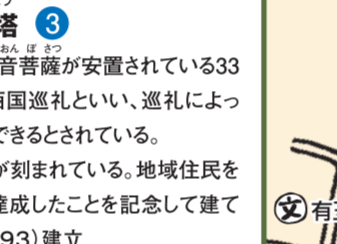
## 龍秀院 4

家康公が浜松城在城のときに、当院五世浄土宗の僧侶が、茶会などの催しに幾度も招かれ家康公との親交が深かったといわれている。また、家康公に説法をし、それを気に入られ25石6斗7升の寺領が下賜されたという記録が残る。



## 西国三十三所巡禮供養塔 3

近畿二府四県と岐阜県の観世音菩薩が安置されている33箇所の霊場を巡礼することを西国巡礼といひ、巡礼によって現世の罪が消滅し極楽往生できるとされている。この供養塔には巡礼者の名前が刻まれている。地域住民を代表して17人が、西国巡礼を達成したことを記念して建てられたものである。元禄6年(1693)建立



## 高林家とその長屋門 2

有玉神社の祭典で、現在も行われている流瀧馬は、およそ400年前、家康公が大坂の役から陣陣の際、戦場で乗った愛馬を寄進したことに始まるといわれている。江戸時代には、浜松城主が毎年見物に来たといわれている。



## 有玉神社 2

有玉神社の祭典で、現在も行われている流瀧馬は、およそ400年前、家康公が大坂の役から陣陣の際、戦場で乗った愛馬を寄進したことに始まるといわれている。江戸時代には、浜松城主が毎年見物に来たといわれている。



## 江原主従地蔵 1

三方原の戦いの際、傷を負った武士とその家来が馬込川までたどり着いたが、武士も家来も死んでしまった。近くの人たちはこの主従を哀れに思い手厚く葬り、その上に地蔵尊を建てて供養した。その後地蔵尊は、川の中に埋もれていたが、江原の人たちが総出で探し出しお堂を建てた。



## 秋葉山周辺図



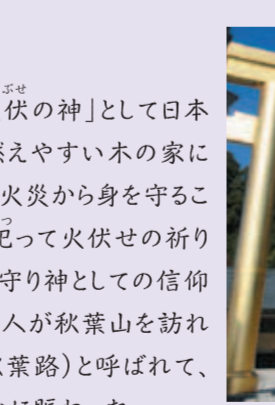
# 祈りの道 秋葉街道

浜松市東区 秋葉マップ

平成26年3月発行

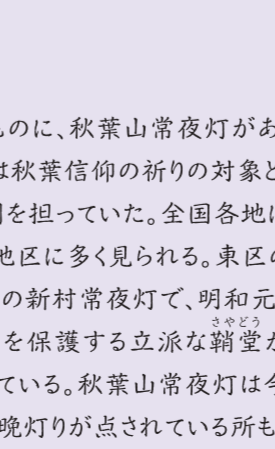
## 秋葉信仰

秋葉山は、江戸時代は「火伏の神」として日本全国から信仰を集めた。燃えやすい木の家に住んでいた日本人にとって、火災から身を守ることは重要であり、火の神を祀って火伏せの祈りを捧げたことから火伏せの守り神としての信仰を集め、秋葉詣として多くの人が秋葉山を訪れた。参拝道は秋葉街道(秋葉路)と呼ばれて、街道周辺の宿場や店は大いに賑わった。



## 秋葉山常夜灯

秋葉信仰の広がりや示すものに、秋葉山常夜灯がある。秋葉山常夜灯には二つの役割があり、一つは秋葉信仰の祈りの対象として、もう一つは秋葉街道の道しるべとしての役割を担っていた。全国各地にあるが、特に遠州地域に多く、東区内では積志地区に多く見られる。東区の秋葉街道周辺で最も古い常夜灯は、有玉北町の新村常夜灯で、明和元年(1764)6月28日建立のものである。常夜灯を保護する立派な鞘堂が作られた所もある。これらは「龍灯」とも呼ばれている。秋葉山常夜灯は今でも数多く残っており、地域の人たちによって毎晩灯りが点けられている所も多い。



## 秋葉の火祭り

伝統ある秋葉の火祭りは、秋葉寺と秋葉神社で毎年12月15日と16日に古式ゆかりの行事が行われ、多くの信者や参拝者が訪れる。秋葉神社上社で16日夜半(22~24時)に行われる防火祭では、弓の舞、剣の舞、そして松明を振りかざして舞う火の舞が3人の神職によって執り行われる。

